
エコアクション21

環境経営レポート・2022



対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日

作成日：2023年 7月 27日

東海地区スバルグループ

名古屋スバル自動車株式会社

岐阜スバル自動車株式会社

三重スバル自動車株式会社

～ 目 次 ～

【1】	組織概要	1
【2】	推進組織図	3
【3】	店舗一覧	4
【4】	環境経営方針	6
【5】	過去5年間の実績推移	7
【6】	環境経営目標	9
	1. 2022 年度環境経営目標	9
	2. 中期環境経営目標	11
【7】	2022 年度環境負荷状況	13
	1. 前年度実績比較	13
	2. 2022 年度目標実績比較	15
【8】	環境活動の取組み	17
	1. 計画とその行動評価、次年度の取組み	17
	2. 取組み事例	19
【9】	環境関連法規への違反・訴訟の有無	21
	1. 主な環境関連法規	21
	2. 違反、訴訟の有無	21
【10】	代表者の評価・見直し	21
	1. 全体評価	21
	2. 見直し	21

【1】組織概要



1. 統括会社

(1) 会社名：名古屋スバル自動車株式会社

(2) 所在地：愛知県名古屋市北区落合町233

(3) 代表者氏名：代表取締役社長 小笠原 巧

(4) 環境管理責任者及び担当者連絡先

EA21 推進責任者	代表取締役	社長		小笠原 巧
EA21 副推進責任者	統括管理本部	本部長		西尾 輝英
環境管理責任者		統括監査部	部長	佐藤 正実
環境管理副責任者	統括管理本部	統括総務部	部長代理	磯貝 千孝
EA21 事務局長		統括監査部	部長代理	松田 耕一
EA21 事務局		統括監査部	監査課主査	山崎 学
EA21 事務局		統括監査部	監査課主査	廣瀬 豊
EA21 事務局		統括監査部	監査課主査	古田 隆士
EA21 実行責任者※	名古屋スバル	統括サービス部品部	部長	壁谷 好人
連絡先	TEL：052-901-8611/FAX：052-901-8263			

※印は名古屋スバル自動車のEA21 実行責任者を示す。

※印以外はEA21 統括環境管理責任者及び事務局を示す。

(5) 事業の内容

スバル車の販売並びに付随する関連業務

- ①自動車の販売
- ②中古自動車販売
- ③前各号に関する部品・用品等の関連商品の販売
- ④車検・定期点検・一般修理・板金塗装
- ⑤自動車損害賠償保障法に基づく保険代理店業

(6) 事業の規模(名古屋スバル自動車株式会社を示す)

年間売上	27,494百万円	2022年度
新車販売台数	5,539台	2022年度
中古車販売台数	3,577台	2022年度
従業員数(派遣 パート含む)	576名	2023年3月末現在
店舗数	本社、新車21店舗、中古車4店舗、部品センター1店舗	

(7) エコアクション21 認証・登録範囲：本社を含む全組織、全活動が対象である。

2-1. 事業会社

(1) 会社名：岐阜スバル自動車株式会社

(2) 所在地：岐阜県岐阜市細畑 1-7-15

(3) 代表者氏名：代表取締役社長 森島 広良

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

EA21 推進責任者	代表取締役	社長	森島 広良
EA21 副推進責任者	営業支援部	部長	清水 辰己
EA21 実行責任者	サービス部品部	部長	西尾 護
連絡先	TEL：058-245-8416/FAX：058-245-5259		

(5) 事業の内容：統括会社（5）の①～⑤に同じ。

(6) 事業の規模

年間売上	7,575百万円	2022年度
新車販売台数	1,683台	2022年度
中古車販売台数	906台	2022年度
従業員数（派遣 パート含む）	161名	2023年3月末現在
店舗数	新車8店舗（本社含む） 中古車1店舗	

(7) エコアクション21 認証・登録範囲：本社を含む全組織、全活動が対象である。

2-2. 事業会社

(1) 会社名：三重スバル自動車株式会社

(2) 所在地：三重県津市高茶屋小森町 398

(3) 代表者氏名：代表取締役社長 沼 耕一

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

EA21 推進責任者	代表取締役社長		沼 耕一
EA21 副推進責任者	営業支援部	部長	鳥居 彰
EA21 実行責任者	サービス部品部	部長代理	星野 光生
連絡先	TEL：059-271-6030/FAX：059-271-6033		

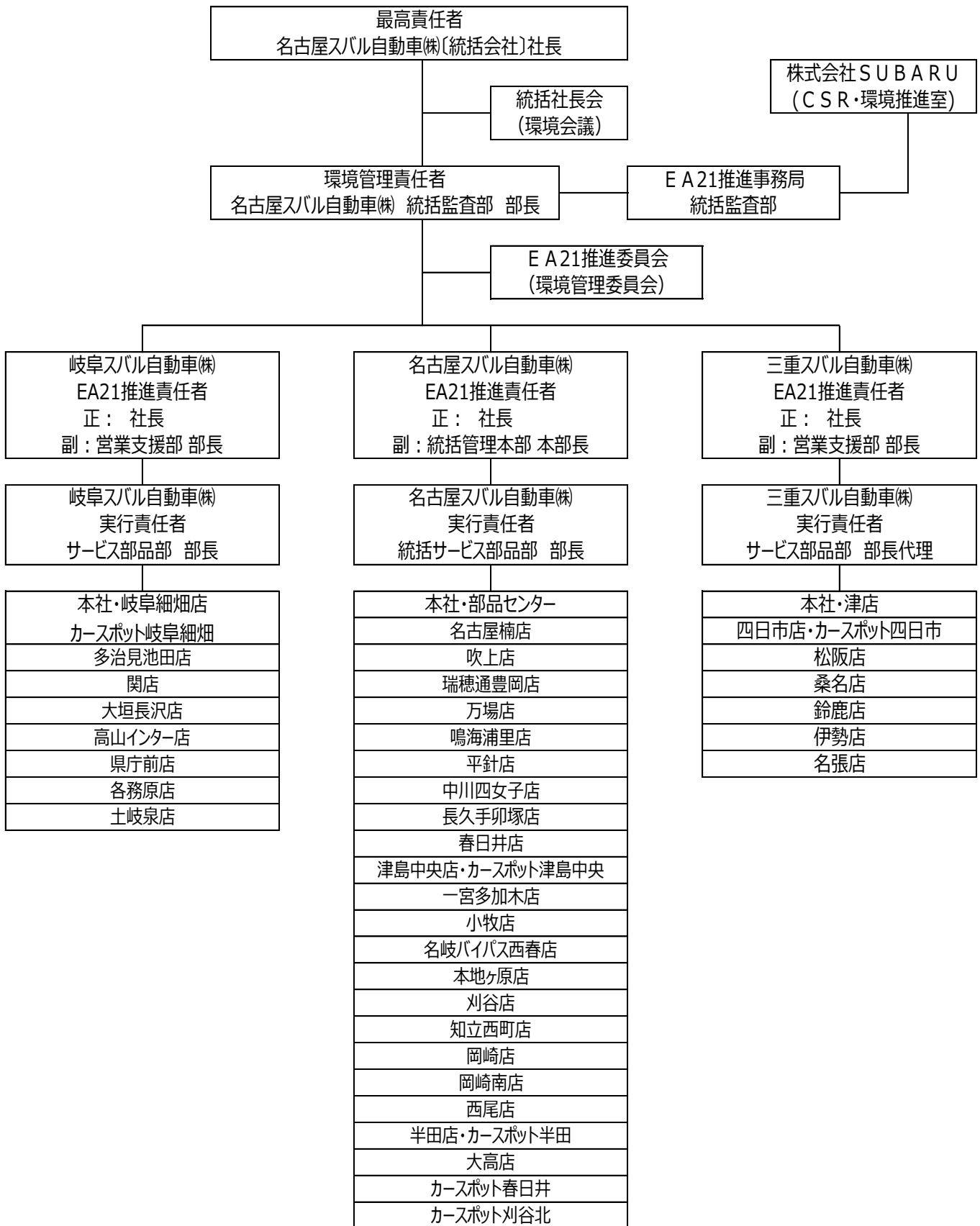
(5) 事業の内容：統括会社（5）の①～⑤に同じ。

(6) 事業の規模

年間売上	6,513百万円	2022年度
新車販売台数	1,385台	2022年度
中古車販売台数	969台	2022年度
従業員数（派遣 パート含む）	161名	2023年3月末現在
店舗数	新車7店舗（本社含む） 中古車店舗1店舗	

(7) エコアクション21 認証・登録範囲：本社を含む全組織、全活動が対象である。

【2】 推進組織図



【3】店舗一覧



	名古屋スバル事業所名	郵便番号	住所	電話番号	FAX番号	工場	組織区分
						資格	
本社部門							
1	統括監査部	462-0017	愛知県名古屋市北区落合町233	052-901-8611	052-901-8263	—	A
	統括管理本部						
	統括総務部						
	統括経理部						
	統括推進本部			052-901-8616	052-902-4073		
	統括総合営業推進部						
	統括中古車部						
統括サービス部品部	052-901-8541	052-901-8889					
名古屋サービス部品							
	名古屋部品センター	462-0017	愛知県名古屋市北区落合町233	052-901-7111	052-902-5456	—	A
営業本部							
営業第一部							
2	名古屋楠店	462-0017	愛知県名古屋市北区落合町175	052-901-8645	052-901-8721	指定工場	C
3	吹上店	464-0858	愛知県名古屋市千種区千種3-36-15	052-732-3271	052-732-3280	指定工場	C
4	瑞穂通豊岡店	467-0012	愛知県名古屋市瑞穂区豊岡通3-10-1	052-732-3272	052-842-3340	指定工場	C
5	万場店	454-0997	愛知県名古屋市中川区万場2-209	052-732-3273	052-431-6122	指定工場	C
6	鳴海浦里店	485-0847	愛知県名古屋市長区浦里5-128	052-732-3274	052-621-0901	指定工場	C
7	平針店	468-0011	愛知県名古屋市中川区平針3-1015	052-732-3275	052-804-3940	指定工場	C
8	中川四女子店	454-0822	愛知県名古屋市中川区四女子町2-16	052-732-3276	052-362-9351	指定工場	C
営業第二部							
9	春日井店	486-0856	愛知県春日井市梅ヶ坪町106	0568-81-8690	0568-81-8550	指定工場	C
10	津島中央店	496-0047	愛知県津島市西柳原町1-90-1	0567-28-3724	0567-25-6670	指定工場	C
	カースポット津島中央						
11	一宮多加木店	491-0837	愛知県一宮市多加木2-7-36	0586-24-1213	0586-24-1217	指定工場	C
12	小牧店	485-0016	愛知県小牧市大字間々原新田字上新池852	0568-73-6811	0568-77-6813	指定工場	C
13	名岐バイパス西春店	481-0035	愛知県北名古屋市宇福寺天神190	0568-25-8101	0568-25-8105	指定工場	C
14	長久手卯塚店	480-1145	愛知県長久手市卯塚1-703	0561-76-8880	0561-64-2447	指定工場	C
15	本地ヶ原店	488-0044	愛知県尾張旭市本地ヶ原町2-125	0561-55-7411	0561-55-0551	指定工場	C
営業第三部							
16	刈谷店	448-0031	愛知県刈谷市東新町4-105	0566-25-0611	0566-25-0631	指定工場	C
17	知立西町店	472-0023	愛知県知立市西町本田11-1	0566-91-8111	0566-84-5701	指定工場	C
18	岡崎店	444-2123	愛知県岡崎市鴨田南町9-5	0564-24-9501	0564-22-6615	指定工場	C
19	岡崎南店	444-0206	愛知県岡崎市法性寺町字猿待28-1	0564-54-6223	0564-54-7825	指定工場	C
20	西尾店	445-0802	愛知県西尾市米津町宮東1-6	0563-56-7278	0563-56-7256	指定工場	C
21	半田店	475-0804	愛知県半田市上浜町1-2	0569-21-6339	0569-21-5453	指定工場	C
	カースポット半田						
22	大高店	459-8001	愛知県名古屋市緑区大高町字寅新田116	052-624-2245	052-624-5411	指定工場	C
中古車部							
24	カースポット春日井	486-0839	愛知県春日井市六軒屋町西2-2-7	0568-89-2277	0568-89-2221	—	B
27	カースポット刈谷北	448-0001	愛知県刈谷市井ヶ谷町下前田14-5	0566-62-7735	0566-62-7738	—	B

岐阜バル事業所名		郵便番号	住所	電話番号	FAX番号	工場 資格	組織区分
1	本社部門	500-8238	岐阜県岐阜市細畑1-7-15	058-245-4126	058-245-5259	—	A
	営業支援部			058-245-4126			
	営業部			058-245-4127			
	中古車部			058-245-8416			
	サービス部品部			058-245-4120			
	岐阜細畑店		岐阜県岐阜市細畑1-7-3	058-245-8560	058-245-8479	指定工場	C
	カースポット岐阜細畑				058-245-8480	—	B
2	多治見池田店	507-0048	岐阜県多治見市池田町9-1-3	0572-22-7137	0572-22-7143	指定工場	C
3	関店	501-3253	岐阜県関市栄町4-1-70	0575-22-0193	0575-22-2291	指定工場	C
4	大垣長沢店	503-0833	岐阜県大垣市長沢町2-9-1	0584-75-5161	0584-75-5163	指定工場	C
5	高山インター店	506-0001	岐阜県高山市冬頭町730-1	0577-32-9600	0577-34-3230	指定工場	C
6	県庁前店	500-8381	岐阜県岐阜市市橋3-6-3	058-274-7117	058-274-7473	指定工場	C
7	各務原店	509-0146	岐阜県各務原市鶴沼三ツ池町3-33	058-379-5131	058-379-2760	指定工場	C
8	土岐泉店	509-5101	岐阜県土岐市泉町河合911-4	0572-55-0301	0572-55-0304	指定工場	C

三重バル事業所名		郵便番号	住所	電話番号	FAX番号	工場 資格	組織区分
1	本社部門	514-0817	三重県津市高茶屋小森町398	059-271-6100	059-271-6033	—	A
	営業部			059-271-6031			
	営業支援部						
	サービス部品部						
津店			059-271-6000	059-271-6005	指定工場	C	
2	中古車部	510-0064	三重県四日市市新正5-4-9	059-353-2166	059-357-3172	—	A
	中古車課			059-353-2161			
	四日市店			059-353-2166	059-357-3172	指定工場	C
	カースポット四日市					—	B
3	松阪店	515-2122	三重県松阪市久米町1259-1	0598-56-2711	0598-56-2715	指定工場	C
4	桑名店	511-0834	三重県桑名市大福470-1	0594-22-1583	0594-22-1644	指定工場	C
5	鈴鹿店	513-0813	三重県鈴鹿市北玉垣町1680-1	059-382-3270	059-383-6520	指定工場	C
6	伊勢店	516-0051	三重県伊勢市上地町2582-2	0596-22-4815	0596-28-8259	指定工場	C
7	名張店	518-0613	三重県名張市小波田1983-1	0595-67-0111	0595-65-9000	指定工場	C

組織区分の意味

A＝オフィス業務（事務所業務）

B＝オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）

C＝オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）＋整備業務

環 境 経 営 方 針

《基本理念》

東海地区スバルグループ(以下「当グループ」という)は、地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、資源の有効活用と顧客満足度の向上を図り、スバル車の販売・整備等の事業活動から生ずる、地域および次世代の環境への影響を第一に考え、環境と調和のとれた持続的発展へ取り組みます。

また、住みよい地域環境と、地球環境の保全を積極的に図り、事業経営の全領域で環境保全に配慮しつつ社会の発展に貢献してまいります。

《基本方針》

この理念のもと、当グループが行なうスバル車および部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー、廃棄物の排出、リサイクル、公害防止に配慮した活動、環境保全に努めます。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、定期的に環境監査を実施し環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進し、環境管理の維持向上を図ります。
3. 環境に関する法規制、条例、及び当グループが同意する指針、その他の要求事項を遵守します。
4. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境経営目標を設定し取り組み、必要があれば見直しを行います。
 - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
 - ②省資源（水使用量、紙使用量）
 - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
 - ④化学物質管理の強化
 - ⑤今後の店舗展開及び機材投入の際には環境経営方針に合ったものを取り入れる
 - ⑥店舗周辺の清掃を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
 - ⑦本業の事業活動の中でエコカー・エコ商品の販売を推進し、環境配慮に取り組む
5. この環境経営方針を全従業員に周知し、教育活動を推進し地域社会に貢献します。



東海地区スバルグループ

認証番号：0003592

環境経営方針制定日：2019年4月1日
名古屋スバル自動車株式会社
(東海地区スバルグループ統括)

代表取締役社長

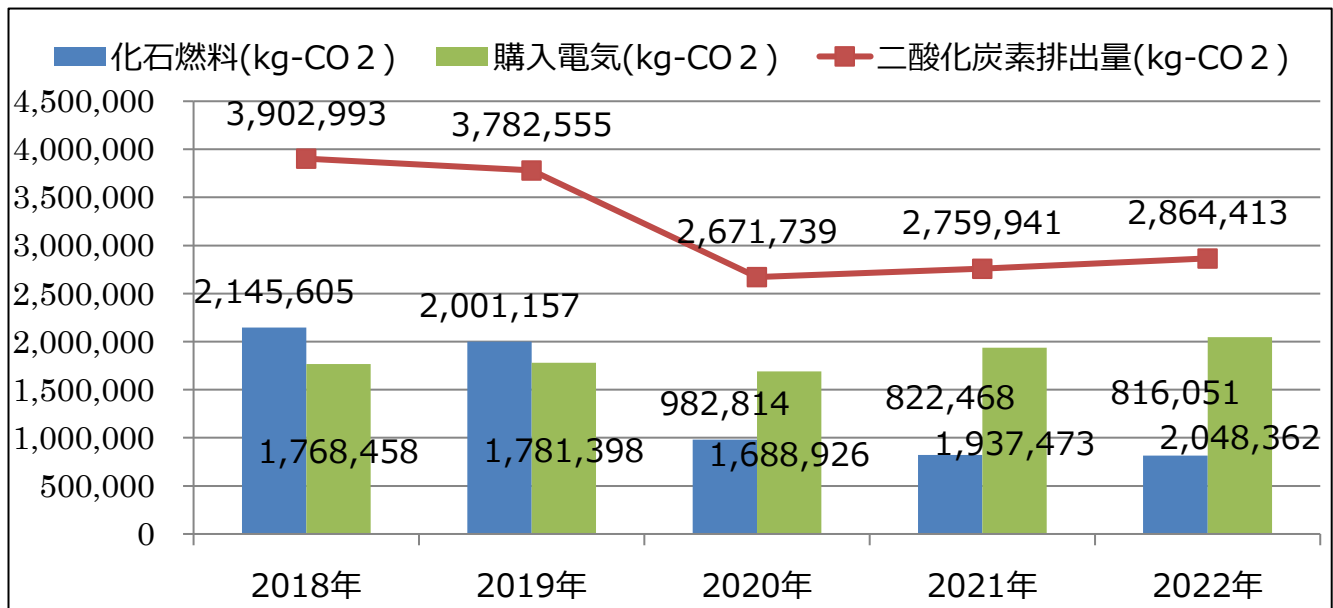
小笠原 巧

【5】過去5年間の実績推移

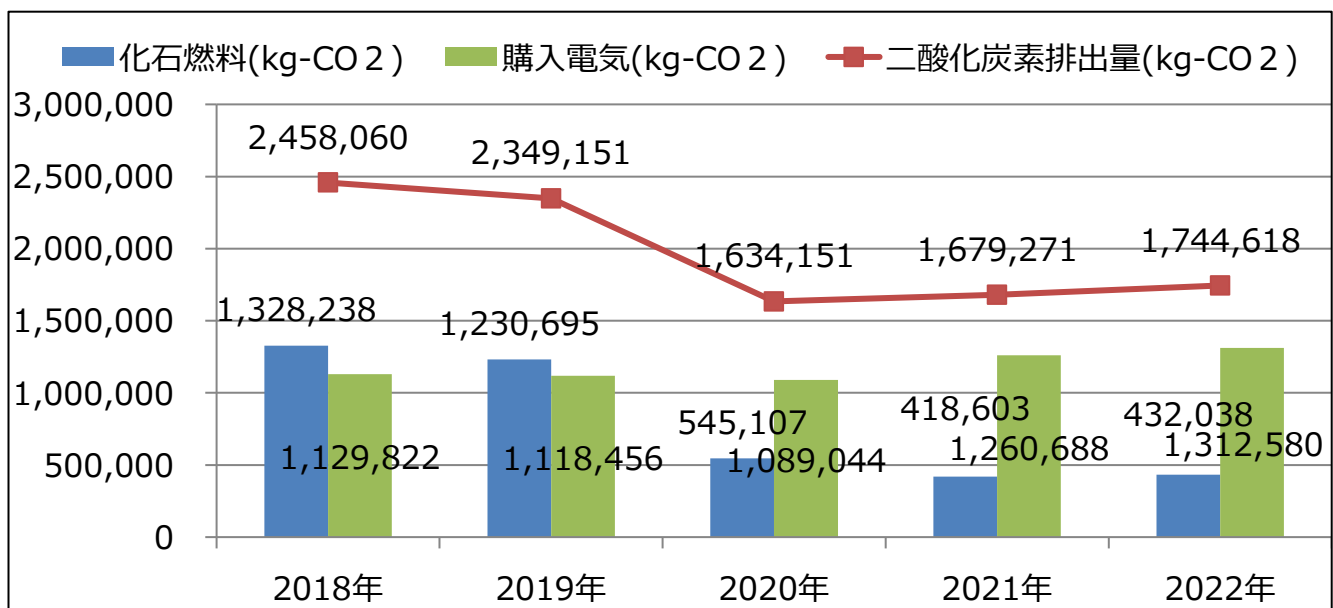


1. 二酸化炭素排出量推移

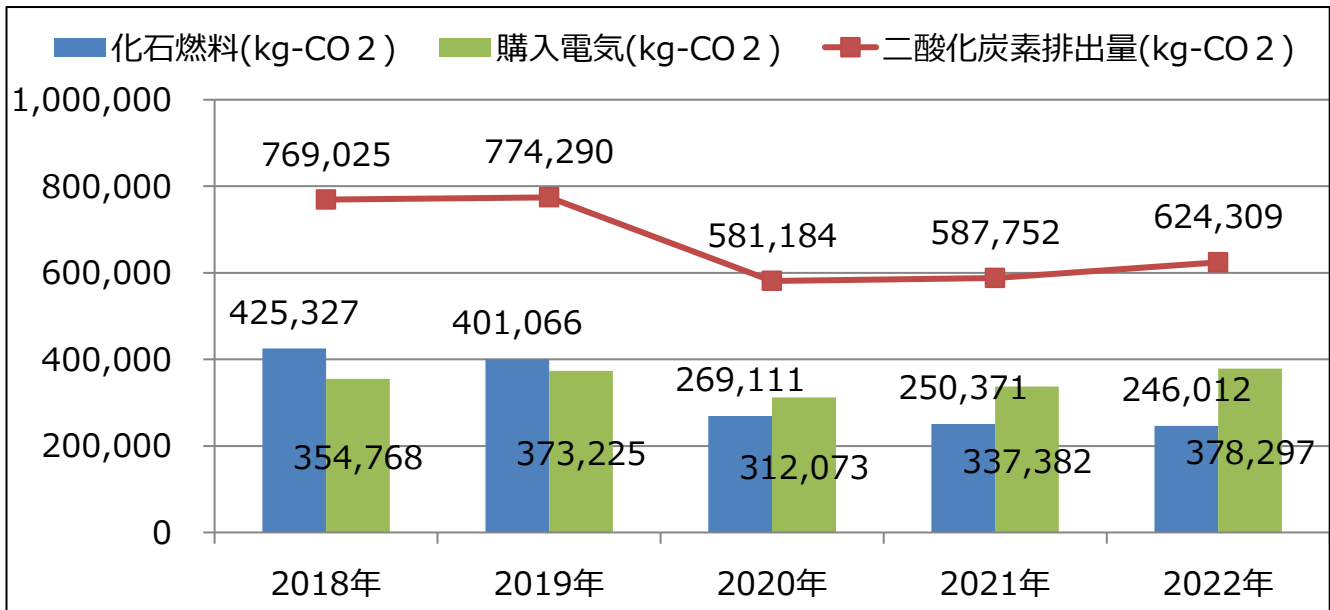
(1) 東海地区スバルグループ



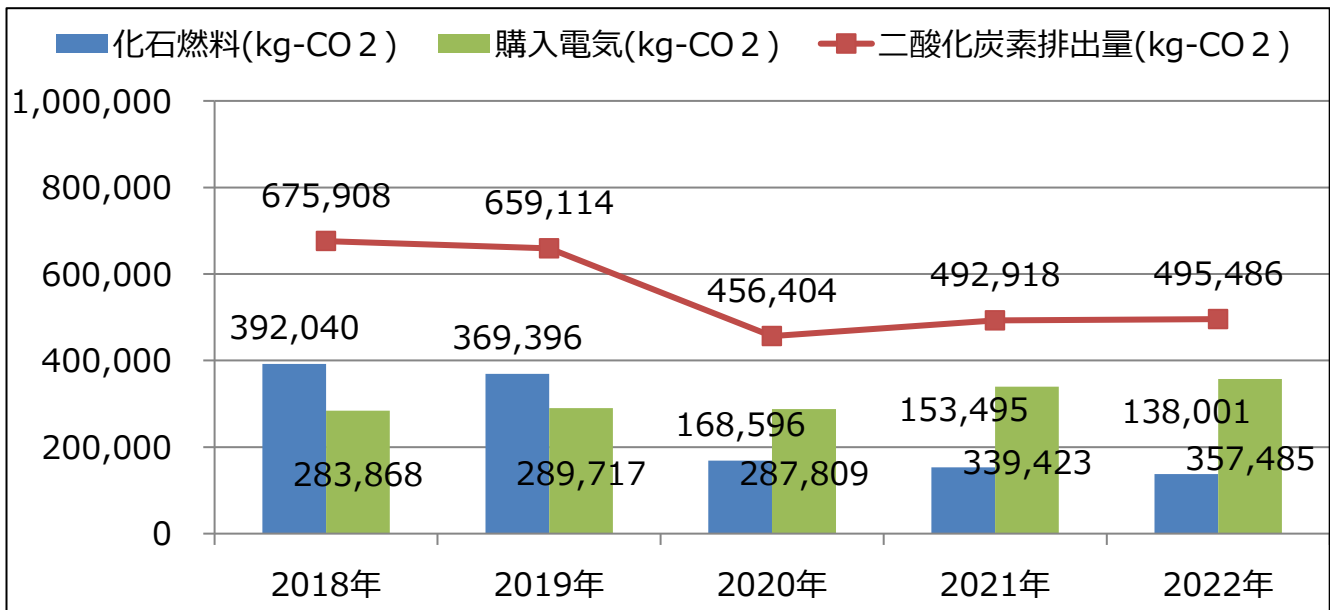
(2) 名古屋スバル自動車



(3) 岐阜スバル自動車



(4) 三重スバル自動車



※購入電力の二酸化炭素排出係数は、2017年度中部電力調整後排出係数 0.472kg-CO₂/kWh を使用。

【6】環境経営目標



当グループの事業活動が環境に与える負荷を把握し、影響が大きいと考えられるエネルギーの使用量・産業廃棄物の排出量及び水使用量の削減活動に重点を置き、環境負荷の低減及び環境汚染の防止に努め、同時にリサイクルの推進も積極的に行います。

1. 2022年度環境経営目標

2021年度実績より1%削減を目標とし、各事業所へはこの基準を2022年度目標に反映し活動を展開しました。

(1) 東海地区スバルグループ目標

項目	単位	2021年度実績	2022年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	2,759,941	2,732,342	
購入電力	kg-CO ₂	1,937,473	1,918,098	
化石燃料	kg-CO ₂	822,468	814,243	
電気使用量	kWh	4,104,816	4,063,768	
燃 料	ガソリン	L	291,894	288,976
	灯油	L	1,247	1,235
	軽油	L	34,027	33,687
	LPG	kg	11,375	11,261
	都市ガス	Nm ³	8,648	8,562
水使用量	m ³	23,776	23,538	
一般廃棄物(総排出量)	t	136	134	
産業廃棄物	t	1,006	997	
有価物※	t	607	613	

(2) 名古屋スバル自動車目標

項目	単位	2021年度実績	2022年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	1,679,271	1,662,478	
購入電力	kg-CO ₂	1,260,668	1,248,061	
化石燃料	kg-CO ₂	418,603	414,417	
電気使用量	kWh	2,670,907	2,644,198	
燃 料	ガソリン	L	167,151	165,480
	灯油	L	254	252
	軽油	L	11,386	11,272
	LPG	kg	7	7
	都市ガス	Nm ³	0	0
水使用量	m ³	16,580	16,414	
一般廃棄物(総排出量)	t	95	94	
産業廃棄物	t	529	524	
有価物※	t	405	409	

(3) 岐阜スバル自動車目標

項目	単位	2021年度実績	2022年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	587,752	581,875	
購入電力	kg-CO ₂	337,382	334,008	
化石燃料	kg-CO ₂	250,371	247,867	
電気使用量	kWh	714,792	707,644	
燃 料	ガソリン	L	68,604	67,918
	灯油	L	993	983
	軽油	L	13,817	13,679
	LPG	kg	11,368	11,254
	都市ガス	Nm ³	8,648	8,562
水使用量	m ³	2,613	2,587	
一般廃棄物（総排出量）	t	19	19	
産業廃棄物	t	250	248	
有価物※	t	98	99	

(4) 三重スバル自動車目標

項目	単位	2021年度実績	2022年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	492,918	487,989	
購入電力	kg-CO ₂	339,423	336,029	
化石燃料	kg-CO ₂	153,494	151,959	
電気使用量	kWh	719,117	711,926	
燃 料	ガソリン	L	56,139	55,578
	灯油	L	-	-
	軽油	L	8,824	8,736
	LPG	kg	-	-
	都市ガス	Nm ³	-	-
水使用量	m ³	4,583	4,537	
一般廃棄物（総排出量）	t	22	21	
産業廃棄物	t	227	225	
有価物※	t	104	105	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、2017年度中部電力調整後排出係数0.472kg-CO₂/kWhを使用。
 ※有価物とは有償で売却できるリサイクル資源（廃油、使用済みバッテリー、鉄くず、アルミホイール）のことを指す（目標値は1年間に1%増加）。
 ※化学物質（PRTR対象物質）は使用していない。

2. 中期環境経営目標

2022年度の実績を基準に、1年間に1%の削減を目標に、3年間の目標を策定しました。この目標は、全社的な投資計画などに反映させます。

(1) 東海地区スバルグループ目標

項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	2,864,413	2,835,769	2,807,411	2,779,337	
購入電力	kg-CO ₂	2,048,362	2,027,878	2,007,600	1,987,524	
化石燃料	kg-CO ₂	816,051	807,890	799,812	791,813	
電気使用量	kWh	4,339,751	4,296,353	4,253,390	4,210,856	
燃 料	ガソリン	L	292,257	289,334	286,441	283,577
	灯油	L	1,117	1,106	1,095	1,084
	軽油	L	31,800	31,482	31,167	30,856
	LPG	kg	11,052	10,941	10,832	10,724
	都市ガス	Nm ³	8,592	8,506	8,421	8,337
水使用量	m ³	21,982	21,762	21,545	21,329	
一般廃棄物（総排出量）	t	127	126	124	123	
産業廃棄物	t	891	882	873	865	
有価物※	t	625	631	638	644	

(2) 名古屋スバル自動車目標

項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	1,744,618	1,727,172	1,709,900	1,692,801	
購入電力	kg-CO ₂	1,312,580	1,299,454	1,286,460	1,273,595	
化石燃料	kg-CO ₂	432,038	427,718	423,440	419,206	
電気使用量	kWh	2,780,890	2,753,081	2,725,550	2,698,295	
燃 料	ガソリン	L	172,399	170,675	168,968	167,279
	灯油	L	40	40	39	39
	軽油	L	12,016	11,896	11,777	11,659
	LPG	kg	2	2	2	2
	都市ガス	Nm ³	70	69	69	68
水使用量	m ³	14,926	14,777	14,629	14,483	
一般廃棄物（総排出量）	t	85	84	83	82	
産業廃棄物	t	502	497	492	487	
有価物※	t	413	417	421	426	

(3) 岐阜スバル自動車目標

項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	624,309	618,066	611,885	605,766	
購入電力	kg-CO ₂	378,297	374,514	370,769	367,061	
化石燃料	kg-CO ₂	246,012	243,552	241,116	238,705	
電気使用量	kWh	801,477	793,462	785,528	777,672	
燃 料	ガソリン	L	67,168	66,496	65,831	65,173
	灯油	L	1,077	1,066	1,056	1,045
	軽油	L	13,812	13,674	13,537	13,402
	LPG	kg	11,050	10,940	10,830	10,722
	都市ガス	Nm ³	8,522	8,437	8,352	8,269
水使用量	m ³	2,694	2,667	2,640	2,614	
一般廃棄物（総排出量）	t	19	19	19	18	
産業廃棄物	t	219	217	215	212	
有価物※	t	111	112	113	114	

(4) 三重スバル自動車目標

項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	495,486	490,531	485,626	480,770	
購入電力	kg-CO ₂	357,485	353,910	350,371	346,867	
化石燃料	kg-CO ₂	138,001	136,621	135,255	133,902	
電気使用量	kWh	757,384	749,810	742,312	734,889	
燃 料	ガソリン	L	52,690	52,163	51,641	51,125
	灯油	L	-	-	-	-
	軽油	L	5,972	5,912	5,853	5,795
	LPG	kg	-	-	-	-
	都市ガス	Nm ³	-	-	-	-
水使用量	m ³	4,362	4,318	4,275	4,232	
一般廃棄物（総排出量）	t	23	23	23	22	
産業廃棄物	t	170	168	167	165	
有価物※	t	101	102	103	104	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、2017年度中部電力調整後排出係数 0.472kg-CO₂/kWh を使用。
 ※有価物とは有償で売却できるリサイクル資源（廃油、使用済みバッテリー、鉄くず、アルミホイール）のことを指す（目標値は1年間に1%増加）。
 ※化学物質（PRTR対象物質）は使用していない。

【7】 2022年度環境負荷状況



1. 前年度実績比較

(1) 東海地区スバルグループ

項目	単位	2021年度実績	2022年度実績	削減率	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	2,759,941	2,864,413	-3.8%	
購入電力	kg-CO ₂	1,937,473	2,048,362	-5.7%	
化石燃料	kg-CO ₂	822,468	816,051	0.8%	
電気使用量	kWh	4,104,816	4,339,751	-5.7%	
燃 料	ガソリン	L	291,894	292,257	-0.1%
	灯油	L	1,247	1,117	10.4%
	軽油	L	34,027	31,800	6.5%
	LPG	kg	11,375	11,052	2.8%
	都市ガス	Nm ³	8,648	8,592	0.6%
水使用量	m ³	23,776	21,982	7.5%	
一般廃棄物（総排出量）	t	136	127	6.6%	
産業廃棄物	t	1,006	891	11.4%	
有価物※	t	607	625	(+3.0%)	

(2) 名古屋スバル自動車

項目	単位	2021年度実績	2022年度実績	削減率	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	1,679,271	1,744,618	-3.9%	
購入電力	kg-CO ₂	1,260,668	1,312,580	-4.1%	
化石燃料	kg-CO ₂	418,603	432,038	-3.2%	
電気使用量	kWh	2,670,907	2,780,890	-4.1%	
燃 料	ガソリン	L	167,151	172,399	-3.1%
	灯油	L	254	40	84.3%
	軽油	L	11,386	12,016	-5.5%
	LPG	kg	7	2	71.4%
	都市ガス	Nm ³	0	70	-
水使用量	m ³	16,580	14,926	10.0%	
一般廃棄物（総排出量）	t	95	85	10.5%	
産業廃棄物	t	529	502	5.1%	
有価物※	t	405	413	(+2.0%)	

(3) 岐阜スバル自動車

項目	単位	2021年度実績	2022年度実績	削減率	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	587,752	624,309	-6.2%	
購入電力	kg-CO ₂	337,382	378,297	-12.1%	
化石燃料	kg-CO ₂	250,371	246,012	1.7%	
電気使用量	kWh	714,792	801,477	-12.1%	
燃 料	ガソリン	L	68,604	67,168	2.1%
	灯油	L	993	1,077	-8.5%
	軽油	L	13,817	13,812	0.0%
	LPG	kg	11,368	11,050	2.8%
	都市ガス	Nm ³	8,648	8,522	1.5%
水使用量	m ³	2,613	2,694	-3.1%	
一般廃棄物（総排出量）	t	19	19	0.0%	
産業廃棄物	t	250	219	12.4%	
有価物※	t	98	111	(+13.3%)	

(4) 三重スバル自動車

項目	単位	2021年度実績	2022年度実績	削減率	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	492,918	495,486	-0.5%	
購入電力	kg-CO ₂	339,423	357,485	-5.3%	
化石燃料	kg-CO ₂	153,494	138,001	10.1%	
電気使用量	kWh	719,117	757,384	-5.3%	
燃 料	ガソリン	L	56,139	52,690	6.1%
	灯油	L	-	-	-
	軽油	L	8,824	5,972	32.3%
	LPG	kg	-	-	-
	都市ガス	Nm ³	-	-	-
水使用量	m ³	4,583	4,362	4.8%	
一般廃棄物（総排出量）	t	22	23	-4.5%	
産業廃棄物	t	227	170	25.1%	
有価物※	t	104	101	(-2.9%)	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、2017年度中部電力調整後排出係数 0.472kg-CO₂/kWh を使用。
 ※有価物とは有償で売却できるリサイクル資源（廃油、使用済みバッテリー、鉄くず、アルミホイール）のことを指す（目標値は1年間に1%増加）。

※化学物質（PRTR対象物質）は使用していない。

※削減率：{(2021年度実績値-2022年度実績値) ÷ (2021年度実績値)} × 100%

2. 2022年度目標実績比較

(1) 東海地区スバルグループ

項目	単位	2022年度目標	2022年度実績	目標との乖離率	評価判定	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	2,732,342	2,864,413	-4.8%	×	
購入電力	kg-CO ₂	1,918,098	2,048,362	-6.8%	×	
化石燃料	kg-CO ₂	814,243	816,051	-0.2%	×	
電気使用量	kWh	4,063,768	4,339,751	-6.8%	×	
燃料	ガソリン	L	288,976	292,257	-1.1%	×
	灯油	L	1,235	1,117	9.6%	◎
	軽油	L	33,687	31,800	5.6%	◎
	LPG	kg	11,261	11,052	1.9%	○
	都市ガス	Nm ³	8,562	8,592	-0.4%	×
水使用量	m ³	23,538	21,982	6.6%	◎	
一般廃棄物（総排出量）	t	134	127	5.2%	◎	
産業廃棄物	t	997	891	10.6%	◎	
有価物※	t	613	625	(+2.0%)	○	

(2) 名古屋スバル自動車

項目	単位	2022年度目標	2022年度実績	目標との乖離率	評価判定	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	1,662,478	1,744,618	-4.9%	×	
購入電力	kg-CO ₂	1,248,061	1,312,580	-5.2%	×	
化石燃料	kg-CO ₂	414,417	432,038	-4.3%	×	
電気使用量	kWh	2,644,198	2,780,890	-5.2%	×	
燃料	ガソリン	L	165,480	172,399	-4.2%	×
	灯油	L	252	40	84.1%	◎
	軽油	L	11,272	12,016	-6.6%	×
	LPG	kg	7	2	71.4%	◎
	都市ガス	Nm ³	0	70	-	-
水使用量	m ³	16,414	14,926	9.1%	◎	
一般廃棄物（総排出量）	t	94	85	9.6%	◎	
産業廃棄物	t	524	502	4.2%	○	
有価物※	t	409	413	(+1.0%)	○	

(3) 岐阜スバル自動車

項目	単位	2022年度目標	2022年度実績	目標との乖離率	評価判定	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	581,875	624,309	-7.3%	×	
購入電力	kg-CO ₂	334,008	378,297	-13.3%	×	
化石燃料	kg-CO ₂	247,867	246,012	0.7%	○	
電気使用量	kWh	707,644	801,477	-13.3%	×	
燃 料	ガソリン	L	67,918	67,168	1.1%	○
	灯油	L	983	1,077	-9.6%	×
	軽油	L	13,679	13,812	-1.0%	×
	LPG	kg	11,254	11,050	1.8%	○
	都市ガス	Nm ³	8,562	8,522	0.5%	○
水使用量	m ³	2,587	2,694	-4.1%	×	
一般廃棄物（総排出量）	t	19	19	0.0%	○	
産業廃棄物	t	248	219	11.7%	◎	
有価物※	t	99	111	(+12.1%)	◎	

(4) 三重スバル自動車

項目	単位	2022年度目標	2022年度実績	目標との乖離率	評価判定	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	487,989	495,486	-1.5%	×	
購入電力	kg-CO ₂	336,029	357,485	-6.4%	×	
化石燃料	kg-CO ₂	151,959	138,001	9.2%	◎	
電気使用量	kWh	711,926	757,384	-6.4%	×	
燃 料	ガソリン	L	55,578	52,690	5.2%	◎
	灯油	L	-	-	-	-
	軽油	L	8,736	5,972	31.6%	◎
	LPG	kg	-	-	-	-
	都市ガス	Nm ³	-	-	-	-
水使用量	m ³	4,537	4,362	3.9%	○	
一般廃棄物（総排出量）	t	21	23	-9.5%	×	
産業廃棄物	t	225	170	24.4%	◎	
有価物※	t	105	101	(-3.8%)	×	

判定基準・・・×：0%未満 ○：0~5%未満 ◎：5%以上

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、2017年度中部電力調整後排出係数0.472kg-CO₂/kWhを使用。

※有価物とは有償で売却できるリサイクル資源（廃油、使用済みバッテリー、鉄くず、アルミホイール）のことを指す（目標値は1年間に1%増加）。

※化学物質（PRTR対象物質）は使用していない。

※目標との乖離率：{(2022年度目標値-2022年度実績値)÷(2022年度目標値)}×100%

【8】環境経営活動の取組



1. 計画とその行動評価、次年度の取組み

	計画	取組み結果	評価	次年度の取組
本来業務による環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ①サービス部門の正確な作業推進 ②スマートボード活用による入庫管理、残業削減 ③点検パックの積極的な提案の実施 ④12ヶ月点検早期入庫予約平準化 ⑤タイヤを始めとするエコ商品の販売促進（燃費向上） 	<ul style="list-style-type: none"> ①業務プロセス改善の取組みにより、正しい点検確かな整備を継続。 ②④Web予約やスマートボードの活用により早期予約の促進や入庫の平準化に取組み効率化を図った ③全数提案を実施し付保率を上げることが出来た ⑤提案によるエコ商品の拡販を図った 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む ④継続して取組む ⑤継続して取組む
電気使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①節電への取組強化を促す掲示を電源SW付近に貼り、不在時、不要な照明の消灯を徹底する ②冷暖房の室温管理（暖房22℃、冷房26℃）夏場、冬場の商談スペースの配置の考慮 ③高圧デマンド監視装置導入による節電、クールビズの導入（5月～10月） ④サイン看板灯、広告塔点灯、消灯時間の管理 春（3～4月）18:00～19:30 夏（5～8月）19:00～19:30 秋（9～11月）18:00～19:30 冬（12～2月）16:30～19:30 	<ul style="list-style-type: none"> ①③④節電の意識は定着している ②お客様、従業員の健康管理面への考慮で（CS向上、熱中症防止）適切に温度管理を行った また、昨年よりメカニックの作業環境改善のため工場の冷暖房化に取組んだが、電気の使用量は増加した。対策として100%CO₂フリー電気を購入するとともにWBGT測定器を活用、働きやすい環境を実現し、省エネにも取組んでいる 	△	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む（職場環境の改善として、工場の冷暖房化完了） ③継続して取組む ④継続して取組む
燃料使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①効率的な代車等の使用により、社用車を削減する ②社用車の入替え及びメンテナンス効率的な代車の使用 ③エコドライブの推進、マタニティドライブの推進活動（マタニティドライブとは妊婦さんや新生児が同乗しているつもりで運転を行うエコドライブです） ④来店型店舗への取組みをさらに推進し訪問型から来店型への移行による燃料使用量削減を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ①②効率的な代車等の使用、社用車メンテナンスを適切に実施した ③エコドライブの推進、マタニティドライブの推進活動を啓蒙した（マタニティドライブとは妊婦さんや新生児が同乗しているつもりで運転を行うエコドライブ） ④来店型の取組を社員に理解させ取組の定着を図った 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む ④継続して取組む
水道水使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①水道の故障、水道管の破損時は速やかに管理担当者に連絡し修復を行なう ②車両洗車時の節水 ③蛇口付近に節水を呼びかける張り紙等を貼り節水に対する注意喚起をする 	<ul style="list-style-type: none"> ①③活動は定着している ②整備入庫車両に対する無料洗車サービス削減の取組を行った結果、車両洗車台数の減少に繋がった 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む

	計画	取り組み結果	評価	次年度の取組
廃棄物排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①マニフェストの管理を徹底する ②廃クーラントの管理を徹底する ③分別再資源化の推進（可燃ごみ、紙ごみ、ダンボール、プラごみ、金属ごみ） ④一般廃棄物は適正に管理し一定量になったら許可業者に引渡する ⑤ツナギ服のマテリアルサイクルを開始 ⑥連絡便書類用封筒の繰り返し利用とボールペン等替え芯等リユースの取組みを更に進める 	<ul style="list-style-type: none"> ①-④一般/産業廃棄物の適正処理を徹底した 一般廃棄物の減少は分別・再資源化の徹底が浸透してきた結果と考えられる 産業廃棄物の減少は有価物の増加に伴うものと考えられる（有価物の金属ゴミは産廃業者が名古屋しか回収できない為名古屋で実施） ⑤ツナギ服のマテリアルサイクルにより約 300 kg を削減し、自動車部品に変換できた。 ⑥連絡便書類用封筒の再利用、詰め替え用文具の使用等、一般ゴミの削減に努めた 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①電子マニフェスト導入を検討する。 ②継続して取組む ③継続して取組む ④継続して取組む ⑤継続して取組む ⑥継続して取組む
紙（コピー）用紙削減	<ul style="list-style-type: none"> ①メールの活用（FAX の削減、ムダに印刷しない） ②コンプライアンスに違反しない裏紙使用の徹底 ③余分なコピーをしない（回覧等で済むものは回覧にし、コピー枚数を減らす） 	<ul style="list-style-type: none"> ①-③店舗間で格差はあるものの新車販売台数増加、車検、12 検台数は減少した。各部門で伝票作成量の増減はあるものの、全社で見ると紙使用量は減少した 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ①地域社会への環境保全活動 	<ul style="list-style-type: none"> ①店舗周辺、近隣の清掃活動の実施（クリーンデイ） ②地域、自治会、町内会との協力 ③交通違反、交通事故撲滅運動への参加 ④インターンシップ受入れ ⑤子ども 110 番の家登録 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む
自動車部品リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ①自動車部品のリサイクルを遵守する 	<ul style="list-style-type: none"> ①バンパー、バッテリー、廃油、金属ごみ(名古屋)は資源再利用の為、積極的に回収し、リサイクル部品の活用も積極的に行った 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む
その他	<ul style="list-style-type: none"> ①グリーン購入法対象物の購入促進 ②環境関連法令を遵守する ③内部監査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①事務用品、省エネ基準適合商品を積極的に購入した ②③統括監査部監査時に、環境関連法令を遵守しているか確認を行った 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む

2. 取組事例

(1) 電気使用量削減

- ①電源付近に節電への取組強化を促す掲示
- ②冷暖房の室温管理（暖房 22℃冷房 26℃）
工場エアコンに関しては、暑さ指数計を使用して管理。
※暑さ指数（WBGT：wet bulb globe temperature）
- ③クールビズの導入（5月～10月）
- ④電化製品購入について省エネ重視の製品導入。
- ⑤定休日の広告塔の消灯。
- ⑥デマンドコントローラーによる電気使用量の見える化
※デマンド監視サービスは、刻々と変化する電気使用量を常時監視し、管理目標として設定されたデマンド値を超過しないように警告やランプで知らせるサービス。



(2) ガソリン使用量の削減

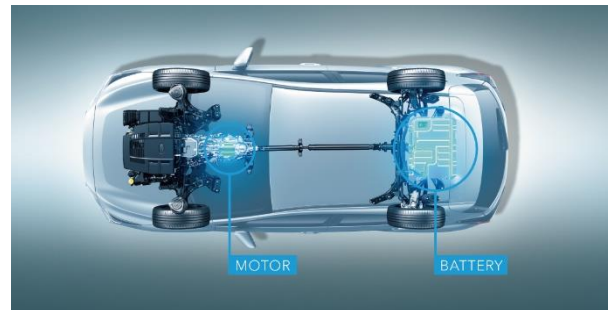
- ①社用車の適正配備
- ②アイドリングストップの推進
- ③エコ運転の推進（マタニティドライブを含むエコドライブ5ヶ条の励行。）
※マタニティドライブとは妊婦さんや新生児が同乗しているつもりで運転を行なうエコドライブの取組み。

(3) CO₂ 排出量の削減

- ①100%CO₂フリー電気の導入
※2022年秋よりCO₂フリー電気(中部電力ミライズ株式会社が提供するGreenでんき)の導入によって実質的なCO₂排出量の削減に努めている。

(4) 自社製品、サービスに付随する環境への配慮

- ①e-BOXER 販売の推進



※e-BOXERとは、水平対向エンジンと電動技術を組み合わせた新開発のパワーユニット効率を高めた水平対向エンジンに、コンパクトで高性能なモーターとバッテリーをシンメトリカルAWDレイアウトに統合

- ②EV 販売の推進



※EVとは、化石燃料を燃焼させる内燃機関を持たないことから、走行時に二酸化炭素や窒素酸化物が出ないゼロエミッション車のことを言う。

③運転支援機能「アイサイト ver.3」搭載車の販売



※交通事故を軽減することで余分な廃棄物排出の抑制につなげている。

④エコタイヤ販売



※低燃費タイヤとは

JATMA（一般社団法人日本自動車タイヤ協会）が定めたグレーディングシステム（等級制度）で**低燃費**と**安全性**が一定以上のレベルを満たしたタイヤです。

※主なタイヤメーカー環境対応商品マーク

ブリヂストン



ブリヂストンは、2005年より、新たに発売する商品・サービスで、ブリヂストンの「環境対応商品基準」を満たすものを「環境対応商品」とし、「環境対応商品マーク」を付与しています。

環境対応商品のタイヤは、乗用車用タイヤからトラック・バス用、産業車両用まで、幅広いラインナップが揃っています。これらの商品は、ブリヂストンのタイヤ開発・設計における先端技術を結集し、タイヤの転がり抵抗の低減や軽量化などを図ったものです。車の燃費向上による走行時のCO₂排出量の削減やタイヤライフの向上など、経済性や環境性に富んだ商品としてお客様から評価されています。

ダンロップ



ダンロップは、低転がり抵抗を追求することによって、低燃費性能を実現し、環境への負荷を徹底して抑えることに力を注いでいます。

環境性能の指標として、転がり抵抗値、軽量化、耐摩耗性能などダンロップ独自の厳しい環境基準「eco line up」を設定しました。

2015年には国内で販売する市販用タイヤ※の主力商品は、全てこの基準を満たしたものとなります。

※対象品目は、国内市販用の乗用車、バス、トラック、ライトトラック用です。

ヨコハマタイヤ



ヨコハマは、製品開発において環境に貢献する技術、生産に取り組む上で自社基準を設けています。

これに適合した商品のカタログページには「eco MOTION PRODUCT」マークを付与しています。

【9】 環境関連法規への違反、訴訟の有無



1. 主な環境関連法規

主な適応法規	要求事項
水質汚濁防止法	特定施設の届出(自動車自動洗車装置等)
下水道法	排水施設の設置義務 特定施設の届出
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、処理委託業者との契約締結
消防法	少量危険物貯蔵の届出
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理
化管法（P R T R法）	特定物質の排出量・移動量の把握と記録
騒音規制法	特定施設の設置の届出
フロン排出抑制法	業務用エアコンの点検、清掃
浄化槽法	定期的な保守点検、清掃、法定検査の実施

2. 違反、訴訟の有無

当グループにおける環境関連法規への違反、訴訟はありません。

尚、関係当局により違反等の指摘は過去3年間なく、自ら遵守確認しています。

【10】 代表者の全体評価、見直し



1. 全体評価

企業の環境活動は単なる義務やPR活動にとどまるべきではなく、自社のビジネス活動を持続的に行っていくために、環境保全と事業のバランスを取りながら運営して行かなければならないと認識している。

2022年度本格的に取組みをスタートしたSDGsは、「スバルに関わる全ての人の人生を豊かにする」と共に、自社のビジネス活動において温室効果ガスや廃棄物の削減、エネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの利用など様々な取組みに繋がっている。その中でもメカニックのツナギ服のマテリアルリサイクルは、今までゴミにしていたツナギ服を資源に変える取組みとなった。工場の冷暖房化により二酸化炭素の排出量が前年より増加することも想定し、再生可能エネルギーの利用として、2022年度11月より東海地区スバルグループは、100%CO₂フリー電気を使用することとした。2022年度は「変革」と「挑戦」の3rdステージとして、来店型店舗による魅力ある店舗作りや職場環境の整備と働き方改革への取組みを継続させ、グループ全体で環境負荷低減に取り組んで来た。

2. 見直し

2023年度も新型コロナウイルスやロシアによるウクライナ侵攻などの社会経済的な悪影響は残るものの、「強い会社」になる為に環境活動とともにビジネス活動とのバランスを取りながら、無駄は削ぎ落とし必要な所にコストを投入し、引き続きグループ全体で二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいきたい。